

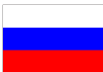
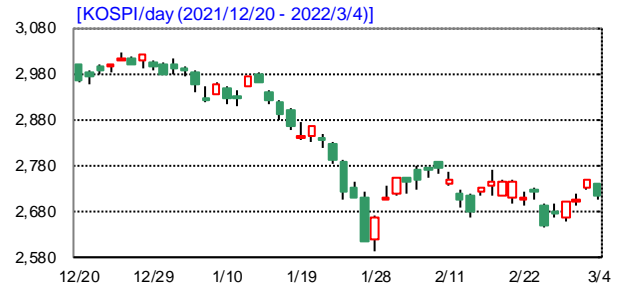


【韓国】 総合指数は週間で1.4%高と4週ぶりに反発、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で1.4%高と4週ぶりに反発。3月1日は三一節で休場のため、4日間のみ取引。週明け2月28日から堅調で、3日まで4営業日続伸となった。ウクライナ情勢への懸念が続いているものの、値ごろ感を意識して買い戻しが優勢。休場明けの2日は好調な輸出を受けた韓国の製造業景況感の改善を好感し、心理的節目の2700ポイントを回復した。3日は米金融引き締めへの警戒感が和らぎ、ほぼ全面高の展開となった。サムスン電子や半導体のSKハイニックスなどハイテク主力株が上昇をけん引。一方、4日は5営業日ぶりに反落。ロシア軍がウクライナにある欧州最大規模の原子力発電所を攻撃したと伝わり、ウクライナ情勢の一段の緊迫が嫌気された。今週もウクライナ情勢をにらみ神経質な展開か。

▼指数チャート



【ロシア】 モスクワ証取が1週間にわたり株式取引を停止、今週も7-8日は停止

先週の動き／今週の展望

モスクワ証券取引所は2月28日-3月4日の間、ほぼすべての株式取引業務を停止した。一方、ロンドン証券取引所ではロシア株の預託証券(DR)の取引は継続され、ズベルバンク・オブ・ロシアDRは前週末の4.0600ドルから週明け2月28日に1.0555ドルに急落し、4日に0.0453ドルまで下落した。主要なロシア株に投資する米国ETFで資産残高が最大のヴァンエック・ロシアETFは前週末の15.60ドルから4日は6.00ドルと週間で61.5%下落。ルーブル(対米ドル)は週間で44.3%安となった。ムーディーズ、S&Pグローバルなどの格付け会社はそろってロシアの格付けをジャンクに引き下げている。今週はモスクワ証取が7-8日に株式取引を停止する予定。9日以降も停止期間を延長する可能性があるという。

▼指数チャート

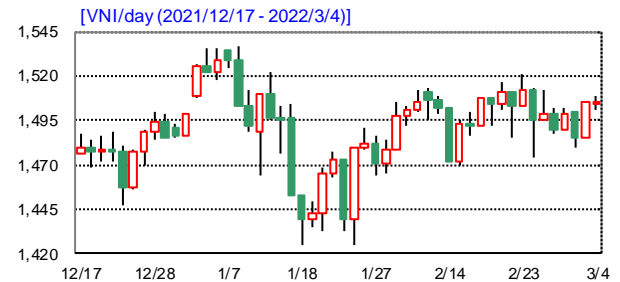


【ベトナム】 ベトナム指数は週間で0.4%高と反発、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN指数は週間で0.4%高と反発した。鉄鋼株やゴム製品などの主力銘柄に資金が流入し、指数は節目の1500ポイントを回復した。週明け2月28日はウクライナ情勢の一段の緊迫化を受けてセンチメントが悪化。指数は前週末比0.6%安と反落した。1-2日もウクライナ情勢をにらんで上昇と下落を繰り返したが、3日は鉄鋼のホア・ファットやゴム製品のベトナム・ラバーなどの主力株が買われ、指数は前日比1.3%高。6営業日ぶりに節目の1500ポイントを回復し、前週の下落幅を取り戻した。個別銘柄ではホア・ファットが8.5%高、ベトナム・ラバーが5.9%高と上昇した一方、飲料のサイゴンビール・アルコール飲料が4.8%安、金融の軍隊商業銀行が3.5%安、ベトインバンクが3.2%安と下落した。今週は底堅い展開か。

▼指数チャート

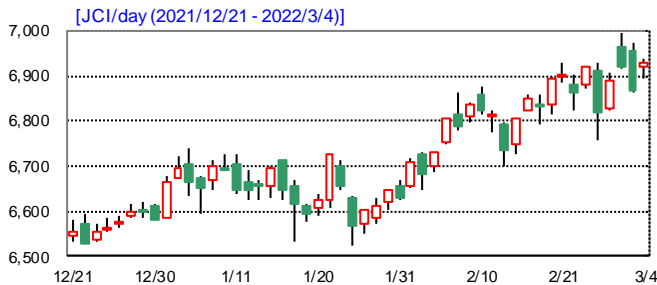


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.6%高、石炭価格の急騰で関連銘柄が値上がり

ジャカルタ総合指数は3日間の取引で0.6%高と反発。じりじりと上値を広げた。連休明けの1日は、前日にロシアとウクライナが停戦交渉を実施し、世界経済の悪化に対する警戒感が和らいだことが買い材料となり、指数は3営業日ぶりに過去最高値を更新。一方、2日はロシア軍によるキエフ攻撃の激化と、欧米諸国のロシアに対する制裁の強化が投資家心理を冷やし、反落した。ただ、祝日を挟んだ4日は石炭価格の急騰を受けて関連銘柄が指数上昇をけん引し、終値で2営業日ぶりに過去最高値を更新して取引を終えている。今週は11日に1月の小売売上高が発表される予定で、前年同月比で2桁増が続く見通し。

▼指数チャート

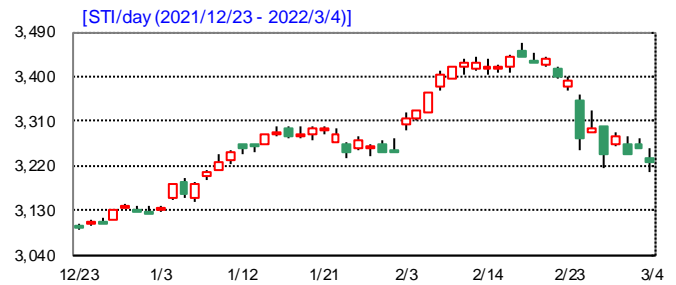


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 2.1%安、欧米諸国の対ロシア経済制裁で売りが加速

ストレーツタイムズ指数は週間で2.1%安と3週続落。一進一退の値動きが続いた。週初の28日は、欧米諸国によるロシアへの経済制裁が売り材料視され、前営業日比1.6%安と反落。一方、1日は中国の2月の公式製造業PMIと財新製造業PMIが市場予想から上振れた効果などで前日比1.1%高と反発したが、2日は原油先物価格が7年8カ月ぶりの高値をつけた影響で、指数は前日から1.0%下落した。3日はロシアとウクライナの停戦交渉再開に対する期待感を受けて、前日のNYダウが上昇した流れで反発したが、4日は反落して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が焦点になりそうだ。

▼指数チャート

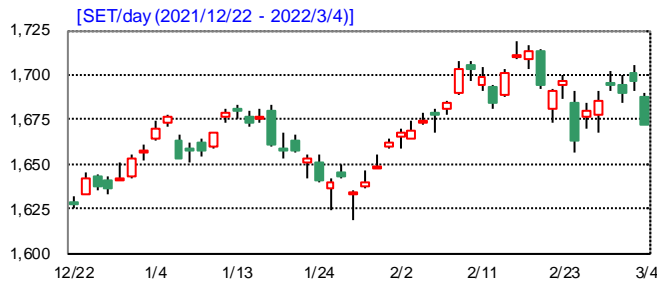


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET指数は 0.5%安、ロシアのウクライナ原発攻撃を嫌気

SET指数は週間で0.5%安と続落。週末の下落が響いた。週初の28日は、タイ荷主協議会が前週末に1-3月期の輸出の伸びが従来の予想を上回るとの見方を示した効果で買われ、指数は続伸。1日は1月の貿易赤字額（通関ベース）が膨らんだものの影響は軽微で、買い優勢の展開が続いた。2日は反動で売られたが、3日はパウエルFRB議長が3月の利上げ幅について0.25%を提案する意向を示し、急速な利上げに対する警戒感が後退した効果で反発。ただ、4日はロシアによるウクライナのザポロジエ原発への攻撃が嫌気され、前日比1.4%安と反落して引けた。今週もウクライナ情勢が相場を左右する展開か。

▼指数チャート

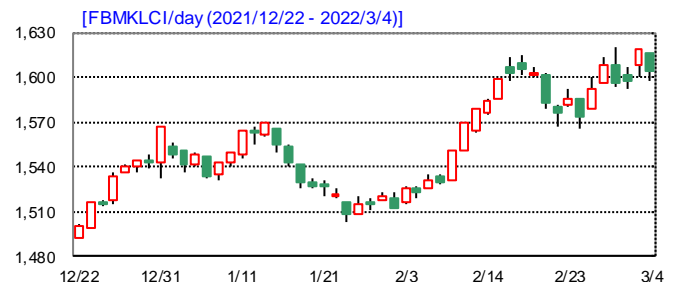


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%高、パーム油価格上昇でプランテーション銘柄に買い

クアラルンプール総合指数は週間で0.8%高と反発。週末の下落が上昇幅を縮めた。週初の28日は、前週末に反発した勢いを引き継ぎ、1.0%高と終値で6営業日ぶりに1600ポイント台を回復。1日は利益確定売りで3日ぶりに反落したが、2日はパーム油価格の上昇を受けてプランテーション銘柄が指数上昇をけん引した。3日は中央銀行が政策金利の据え置きを決定した後、引け際に買われて1.3%高と反発。ただ、4日はウクライナ情勢の深刻化が嫌気され、反落して引けている。今週は11日に1月の鉱工業生産が発表される予定。外部要因では、ロシアに対する西側諸国の経済制裁などが焦点になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社DZHフィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZHが信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZHはその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZHで入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZHは、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようにはしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZHは一切その責任を負いません。

DZHは、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZHおよびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容についてDZHは一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。